

# 自発的な医療データ提供を促す インセンティブメカニズムのデザイン

東京大学大学院工学系研究科技術経営戦略学専攻西野研究室で行なっている研究活動について、学内外の参加者と広く議論する場として「メカニズムシンセシス研究セミナー」を開催いたします。西野研究室ではこれまで、サービスや社会経済システムにおける実践的なメカニズムの設計に関わる研究を、工学と経済学の文理融合的な視点から進めてきました。アカデミアはもちろん、産業界で実務に携わる方々の参加も歓迎いたします。

日時 2024年 3月1日(金) 16:00 - 18:30  
場所 東京大学本郷キャンパス 山上会館 2階 大会議室  
開催形式 ハイブリッド(対面+オンライン)

## プログラム

- 16:00 開会挨拶 西野成昭(東京大学 教授)
- 16:05 研究プロジェクトの概要 藤田正典(立命館アジア太平洋大学 教授 / 東京大学 特任研究員)
- 16:10 「公共財モデルとしてのデータ提供の意思決定分析」 北代絢大(東京大学 修士1年)
- 16:50 「LINCで取り組むヘルスケアデータプラットフォームの構築」  
伊藤真里(国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 上席研究員)  
深川明子(国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 技術補助員)
- 17:30 「次世代医療基盤法の効果と課題」 隅藏康一(政策研究大学院大学 教授)
- 18:10 今後のプロジェクトの展開 & 総合討論
- 18:25 閉会挨拶 西野成昭(東京大学 教授)

## 発表内容

今回のセミナーでは、患者や医療機関が所有する医療データの提供についてのメカニズムに着目した研究テーマについて報告します。近年、機械学習を代表する人工知能分野の飛躍的な発展は、医療をはじめとする生命科学分野へも大きく広がり、疾病の早期発見や診断の支援、創薬の開発などへ大きく貢献する可能性が示されており、生命科学研究が拡大しています。当然ながら、そのような研究の発展には大量の学習データが必要です。しかし、様々な理由によって、患者や医療機関から自発的にデータが提供されることは困難な場合が多く、人工知能と生命科学分野の研究の発展の阻害の要因にもなっています。そのような背景に対して、西野研究室では、自発的にデータ提供を可能にするインセンティブメカニズムの設計に関する研究を進めています。なお、本研究は「ライフサイエンス分野のためのAI・ビッグデータ等のアプリケーション開発及び社会実装を目指すライフインテリジェンスコンソーシアム(LINC)」と連携して進めています。今回のセミナーでは、本研究プロジェクトでこれまでに得られている研究成果の報告とともに、招待講演として国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 医療基盤研究所から伊藤先生、深川先生、政策研究大学院大学から隅藏先生をお招きしています。医療データの提供メカニズムについて、様々な観点から議論します。

## 西野成昭

東京大学大学院工学系研究科  
技術経営戦略学専攻 教授

専門はサービス工学。サービスの構造を、背後にあるルール設計、すなわちメカニズムの設計問題と捉えて、実験経済学やマルチエージェントシミュレーション等の手法を統合的に用いて、新しいサービス工学の開拓を目指し研究に取り組んでいる。経済学と工学の分野融合的な研究を進める研究者である。現在、Journal of Serviceology の Editor in Chief を務める。また、IWES(創発的シンセシスに関する国際ワークショップ)を毎年組織するなど、分野を超えた活動をこれまでにしている。著書に「マルチエージェントのための行動科学：実験経済学からのアプローチ」がある。

## 藤田正典

立命館アジア太平洋大学  
国際経営学部 教授

専門は経営学、社会システム工学、イノベーションマネジメント。大学卒業後、三菱商事に入社。新規 IT 事業開発、金属資源開発、全社情報システム企画などを経験するとともに、複数の IT 関連ベンチャー子会社を設立し、これらの会社の取締役などを歴任。また、在職中に、経営学修士、情報システム学修士、技術経営修士、工学博士の学位を取得し、産業技術大学院大学特任教授、名古屋商科大学客員教授、研究・イノベーション学会理事、などを歴任。現在は、立命館アジア太平洋大学にてスタートアップ・エコシステムや持続可能な社会システムの研究などに取り組む。

## 北代絢大

東京大学大学院工学系研究科  
技術経営戦略学専攻 修士1年

博士号取得に向けて西野研究室で実用的なメカニズムの設計研究に幅広く取り組んでいる。関心分野はゲーム理論、意思決定理論、実験経済学、マルチエージェントシミュレーション。2023年に国際会議 Group Decision and Negotiation で発表したデータ収集メカニズムの提案論文は GDN 2023 Springer Best Student Paper Award を受賞。また生成 AI をメカニズムの設計に活用する可能性も模索しており、そのファーストステップとして進めている生成 AI の実験経済学への導入に関する研究は、近接領域の研究者からも注目を集めている。サービス学会、行動経済学会会員。

## 伊藤眞里

医薬基盤・健康・栄養研究所  
上席研究員

伊藤氏は、免疫学をバックグラウンドに、生体をシステムとして理解するいわゆるシステム生物学を専門とし、遺伝子やタンパク質などの生体内の構成要素と疾患との関係性をコンピュータサイエンスや数学的手法を用いて統合・解析し、難病のメカニズム解明や新薬創出に取り組んでいる。深川氏は、医学研究倫理や各種データベース構築を専門として、伊藤氏とともに、診療現場から収集する患者さんの情報をもとに難病研究を推進している。また、両氏は、90以上の企業やアカデミアが参画するライフインテリジェンスコンソーシアム (<https://linc-ai.jp/>) において、デジタルヘルス&メディシン・RWDのワーキンググループをリードし、全国各地の健診データをカ

タログ化してみえる化を図るプロジェクトを推進している。  
医薬通信社インタビュー記事はこちら →



## 深川明子

医薬基盤・健康・栄養研究所  
技術補助員

## 隅藏康一

政策研究大学院大学  
教授

専門は、知的財産政策、科学技術イノベーション政策。現在は、大学・公的研究機関における基礎研究の成果に基づくイノベーション創出の促進を目指して、産学間の技術移転、スタートアップ創出、研究推進支援人材、大学における各種の制度設計、研究機器・データの利活用のための研究基盤構築などを対象とした調査研究を行っている。また、生命科学分野の知的財産保護や倫理的課題についての調査研究も行っている。「知的財産政策とマネジメント：公共性と知的財産権の最適バランスをめぐって」「TLO とライセンス・アソシエイト」など著書多数。

